

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375000250		
法人名	有限会社 サポートハウス		
事業所名	サポートハウス東名ながくて 2F		
所在地	愛知県長久手市平池406		
自己評価作成日	平成26年8月26日	評価結果市町村受理日	平成27年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
聞き取り調査日	平成26年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者同士の馴染みの関係性と、お互いをよく知り、心地よい環境の中で距離感を保ちながら支え合い、認め合い、それぞれの生活を保ち、共同生活を目指している。 家族、スタッフ、地域の方々、本人を取り巻く全ての人の協力をもとに様々な支援を実現することを第一としている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(外部評価機関からのコメント欄)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰もが見やすい箇所に理念を掲示している。 入社時に理念の説明を受け、申し送り時に振り返り、取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーへの買い出し、散歩や朝・夕の涼み、自治会活動を通して、顔見知り、馴染みの関係となり、又、多くのつながりができる様取り組んでいる。 民生委員の方の運営推進会議参加からも、地域とのつながりが広がっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で事業所の方針を話すことで、地域の方への紹介・見学・相談へとつながっている。 地域包括より、会議内容状況を持ち帰り、情報を広げてもらっている。 近隣へは、行事のお誘いや防災訓練の参加の声掛けに取り組む。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告に対し、意見や要望を分科会で話し合い、共有。日常の支援に活かせる取り組みをしている。特に防災関係が多い。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ参加してもらう事で、ホームの実情や取り組みを理解してもらう。 申請や困難ケースの相談に市役所長寿課へ出向き協力を得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止宣言を掲げ、理念を理解するとともに、意識し取り組めるよう申し送りや会議等で話し合い、実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体の共通認識のもと、常時虐待にあたるものかどうか考え省みる為に、分科会や法人全体の会議等で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	尾張東部成年後見センター研修に参加。制度の理解と分科会等で話し合う。 必要に応じて本人・家族の支援に活かしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に見学と面談を実施し、安心して入居してもらえる様、徹底している。 なお、改定の際には説明会とともに、個別にも説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居前、またその後の訪問時など、常に話が出る環境・関係性をつくっている。職員同一意識を図る為、家族会等で意見・要望・疑問を聞き、説明、理解を得て対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議、分科会、日々の関わりの中で、会社の方向性の提示や意見、提案を含めて話し合いを常時行っている。 改善・実行等は即実施するよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力に対し、賞与や手当などでも明確に評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員の力量を把握し、社内・社外の勉強会を通し、向上をはかる。 外部研修後、施設内で活用するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークづくりを大切にし、同業他社との勉強会や交流会に参加し、意見交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話をよく聞く。 職員が仲立ち、他利用者とのコミュニケーションを図る。 本人の得意なレクリエーション等で安心感を得られるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族の思いや考えにじっくり耳を傾け、ホームでの生活に反映する様、職員に周知徹底する。 不安解消や安心感を持って頂ける様、話をする機会を多く設け、信頼関係構築に努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報を基に、本人と接し、生活の中で、自然な形で取り入れていける様、日々の関わりで得るものを大切に、家族との情報交換をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本位の主体性を必ず念頭に置き、利用者さん同士が力を合わせて、支え合いながら生活できる様な関係性と環境作りの支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子、状況等、家族と連絡を取りながら共に見守り、支援していける様、関係づくりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に外出、訪問が出来る環境作りに配慮している。 顔馴染みの人、場所との関係が継続出来る様、支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、時に仲介し関係性の構築支援に努めている。 相手を気遣い、声を掛けあって共同生活を営んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居中から信頼関係を築くよう努めることで、退所後も気軽に相談や訪問が来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らし、関わりの中から、希望や意向の把握をし、共有している。 困難な場合は、ご家族からの情報や本人の立場で考え、皆で検討し支援につなげている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集と、入居後の本人から教えてもらうことで、修正や追加を行い、現在に至るまでのご本人を理解し、こだわりや馴染みの暮らしの継続支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報、申し送りノート、ヒヤリハット等で情報を共有すると共に、口頭での確認や申し送りを活用。一日一日の変化も把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じ、本人・家族・介護スタッフ・主治医・看護師・他 本人に関わる人を交え、様々な角度、方向から意見を出し合い、計画作成へ反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子、状況の記録、打ち合わせを通し、職員の対応方法、状況を把握、確認し取り組みをする。 職員の意見や記録状況を基に、プラン変更を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人と家族の状況にあわせ、外出・買物・通院の付添をしたりしている。 希望者に応じ、訪問マッサージ・訪問歯科を受ける事もできる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣スーパーへの買い出し、馴染みの喫茶店、地域活動への参加等を通して、地域と関わりながら、共存し生活していけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に当施設に協力医療機関があることを伝え、ご家族や本人に決めてもらっている。 主治医以外の通院は家族にお願いしているが、必要に応じ協力する体制をとっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、健康状態を診てもらい、相談したりアドバイスをもらったりしている。 その上で必要があれば、かかりつけ医の往診を受け、適切な医療を受ける。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の主治医・看護師と、本人の状況・症状・治療方法の連絡を取り合いながら、退院に向けた情報交換・相談・話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期をどうするか、ご家族に説明と話し合いをしている。 重度化した時、家族・主治医と話し合い、その後の支援方法を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを備え、各自がすぐに目にするようにしている。 分科会等、日常的に確認する機会を設けたり、来るべき時に備えた体制と心構えを、職員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を昼間、夜間の想定で近隣の方への協力要請も行い、年に数回実施している。 全国のネットワークを生かし、広域支援による体制構築、災害時における対策をしている。 災害時、物資の提供支給するネットワークである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人としての関わり、対応を大切に、居室やトイレ等に入る時はノックや声掛けをしている。言動や表情などで、必要な支援を見極め、プライバシーを侵さないよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情をみて、個別に居室等で話を聞いている。また、具体的に表せない方には、分かりやすい言葉や筆談等、色々な方法を用いて意思の確認をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりの基本的な生活スタイルを把握、尊重し、その日、その時々々の気持ちや体調を考慮し、対応できる環境を常に整え、その人らしく、思う様に過ごせるよう、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活の中で、本人のこだわりや好みを尊重。服装等、自己決定できるように支援している。理美容時は、利用者さん自身が美容師さんとコミュニケーションを図りながら髪型の希望を伝えている。又は、職員が仲介している。同じ美容師さんが来ることで、馴染みの関係性が出来ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者皆がそれぞれ、メニュー決めから調理・盛付け・配膳・皿洗いまでの役割をもち、職員はポイントをおいた支援のみで、利用者同士楽しみながら食事作りをしている。配膳や片付けも、協力し合い、利用者が力を発揮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に、体調、嗜好、食事の形態、摂り方等、状況に合わせて対応する。日々の打ち合わせ、申し送り、日報等により、その日の状況を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをしている。自分で出来る方は声掛け促し、介助が必要な方はこちらで行い、口腔内の清潔に努めている。必要に応じ、協力歯科医に相談・治療をしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄状態、リズムを分析、把握し、身体状況に合せ、トイレやポータブルを使用している。個々のサインを見逃すことなく、声掛け誘導し、トイレでの排泄につなげ、失敗を防げるように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人、1人毎の排泄時間、日にちの間隔を把握し、有効な飲食物を提供、薬の服用、体操等々し、予防対策に努める。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望、訴え、要望に合った入浴が出来る環境作りをしている。また、入浴しながら自分の選択が出来る様、動きの支援をしている。日々、入浴時間や有無の声掛け、確認をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心感を持ち、ゆったりと休んでもらえる様、入居前から使用している愛用品の持込み等、以前の環境に近づけるような支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を各フロアに常時置き、確認出来る様にしている。又、薬剤師からの説明、注意事項等を全職員が周知徹底できるよう、申し送りやノート等を活用している。状態を細かく主治医へ報告し、調節を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味を継続し、自分らしさの実感をしてもらえる支援をしている。一人ひとりが生活の中で役割をもち、関係性の中で役割をもち、協力した共同生活が営めるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、外出、喫茶店など、近所に出掛けている。他事業所と合同でのお楽しみ会、レクリエーションや地下鉄・市バス等、交通機関を利用した外出支援も行っている。家族の協力を得て、買い物・食事に出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	食材、おやつ、日用品購入の際の品物選びや支払いを利用者さんが行っている。 購入後の品物を袋に入れ、持帰る。買った物を確認することまでを楽しみ、買った物を実感することで、次への楽しみに繋げる支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意志、希望により、電話をしたり手紙を書いている。 家族と連携を取り、本人の思いに沿える様、配慮、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる壁飾りを共同制作したり、季節の花を飾るなどしている。 利用者さんの体型に合わせたテーブルや椅子の設置や、生活する中で必要な物品を、利用者さん自身が取り出しやすい家具の配置と環境に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとつの場所で少人数、個人で楽しめる空間作りと、1・2階行き来も自由に出来、心地よく過ごせる様支援している。 家具の配置をその都度変えながら、互いに気にならないような形を考え対応することを大事にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物、使い慣れた物、本人の生活を送る為に必要な物を置き、安心して過ごせるように配慮する。 その時々、本人の意向に合わせて対応する。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、階段、エレベーター、トイレ、風呂に手すりを設置。室内のペット柵、家具の配置等を個々の状況に合せ、その都度変えている。声掛けもしている。 自分でやることは行ってもらえる様に、安全に配慮し見守りをしている。 声掛けも言葉に配慮し、“声を掛け過ぎず”“手を出し過ぎず”に努めている。		